

平成29年度予算に向けた新規事業採択時評価について
(平成28年8月末現在)

【公共事業関係費】

| 事業区分 | | 新規事業採択箇所数 |
|------|-------|-----------|
| ダム事業 | 直轄事業等 | 1 |
| 合 計 | | 1 |

注1 直轄事業等には、独立行政法人等施行事業(補助事業を除く)を含む

新規事業採択時評価結果一覧 (平成28年8月末現在)

【公共事業関係費】

【ダム事業(実施計画調査から建設段階に移行) (直轄事業等)

| 事業名 事業主体 | 総事業費 (億円) | 費用便益分析 | | | 貨幣換算が困難な効果等による評価 | 担当課 (担当課長名) | |
|----------------------|--------------|----------------|-------|----------|---|-------------------------|--|
| | | 貨幣換算した便益:B(億円) | | 費用:C(億円) | | | |
| | | 便益の内訳及び主な根拠 | 費用の内訳 | B/C | | | |
| 鳴瀬川総合開発事業 東北地方整備局 | 1,220 | 874 | 733 | 1.2 | <ul style="list-style-type: none"> ・戦後の主な洪水は、昭和22年9月、昭和23年9月、昭和25年8月、昭和61年8月、平成14年7月、平成23年9月、平成27年9月がある。 平成27年9月関東・東北豪雨では、浸水戸数665戸、浸水面積3,808haの甚大な浸水被害が発生している。 ・鳴瀬川水系において、戦後最大洪水である昭和22年9月洪水と同規模の洪水が発生した場合には、浸水世帯約18,800世帯、浸水面積は約17,800haに達する恐れがある。 ・平成6年には、近年で最も大きな濁水が発生しており、4月における古川観測所の月間降水量11mmは統計開始(昭和51年)以来の最低を記録し、梅雨期間の降水量は平年の70~80%程度であったことから鳴瀬川水系全体の約42%(7,896ha)で用水障害が発生した。 ・概ね100年に1回程度発生すると考えられる降雨による洪水を想定した場合、事業実施前後で、鳴瀬川流域で想定死者数(避難率40%)が49人減、電力の停止による影響人口が6,710人減などと想定している。 | 水管理・国土保全局治水課 (課長 泊宏) | |